

第19号議案「平成19年度吉川市一般会計予算」の採決前に行われた反対討論・賛成討論です。

反対討論

遠藤 義法

平成19年度の予算には、乳幼児医療費窓口払い廃止の経費や、中曽根小学校の耐震補強・大規模改修工事費などがあり評価しますが、次の問題点を指摘し、反対を表明します。

①障害者自立支援法は、フレンドパーク通所者にも新たな利用料を課しました。障害者団体の運動で政府も見直しをせざるを得なかった。このような不備のある制度に市が何の対策も講じなかったのは問題です。

②平成18年度から第三保育所に指定管理者制度を導入しました。当初3000万円削減できると説明したが、18・19年度の2年間で3300万円の歳出増です。保護者の声に耳を貸さず強行した市の責任は重い。

③道路補修費が昨年に比べ約100万円減らされています。昨年9月議会で「市民生活に密着した事業であり、優先的に予算措置を」との付帯意見が決議されたにもかかわらず、減額されているのは問題。

④武蔵野操車場跡地及び周辺

地区区画整理事業関連の予算について、周辺開発については県からも財政的裏づけが不十分、と指摘されていたものであり急ぐべきではありません。

⑤栄小学校の児童数増に対する教育委員会の進め方をそのまま認めるわけにはいきません。

市長は、「国や県への依存から脱却し、自立した財政の構造」を、と述べているが、財源確保ができる制度にならない限り市の財政は困難になるだけです。

市民サービス削減の行財政改革だけでは自立できないことは明らかで、政府に対して財源移譲も含めた地方分権が必要だとの取り組みが強く求められています。

賛成討論

日暮 進

自民党議員団が市長に対し、要望書を提出している項目別に、事業内容を申し上げます。

総務、財政関係では、平成19年度を初年度とする第4次吉川市総合振興計画、後期基本計画では、重点施策を設定するなど、重点化が図られています。

次に教育関係につきましては、中曽根小学校の耐震補強及び大規模改修工事に合わせて、耐震補強対象外の校舎の外壁等改修

工事費が予算化されています。また、市内小学校のパソコン教室のコンピュータ更新、周辺機器及び庁内コンピュータネットワークの再構築が予定されています。

福祉関係では、子育て支援や放課後児童対策の充実に向け、市内医療機関における乳幼児医療費の窓口立替払いの廃止に伴う増額予算や関小学校の学童保育室の整備費が計上されており

土木関係については、吉川橋の架け替えを含む都市計画道路越谷吉川線・三郷流山線の整備に向けた負担金。また、都市計画道路沼辺公園線街路築造工事、新栄地区の道路改良工事が計上されており

産業関係では、東埼玉テクノポリス工業団地整備拡張に向けて、測量等委託料が予算化されており

最後に都市計画事業関係については、吉川新駅の設置に向けて、新駅設置委託料が計上されており、新駅を含む武蔵野操車場跡地及び新駅周辺地域の計画的な事業化に向けた第一歩と高く評価します。

以上申し上げましたが、行政基盤の確立のためにも、新たな税財源の確保を早急に進めるようお願いし、賛成討論とします。

賛成討論

五十嵐恵千子

平成19年度一般会計予算案について、公明党を代表し、賛成の立場で討論いたします。

当初予算は、151億5500万円、対前年比3%減ですが、予算配分の重点化・効率化を実施し、歳入に見合った歳出構造への転換を図った予算編成であることが伺えます。

次に、注目すべき点として、市内のNPOやボランティア、自治会などが安心して活動できる「市民活動補償制度」の創設。

②安心して子育てができる環境を整え、「新たに開所する民間保育所の運営支援」や「関学童の保育室確保」さらに「乳幼児医療費の窓口払いの廃止」を7月から実施の予算化。③自らごみを出すことが困難な高齢者や障がい者世帯などに対する「ごみの分別収集の実施」や「犬の飼い主にマナーを守ることを宣言してもらおう制度の創設」。

④いきいきと学ぶ楽しさを生みまわすための「(仮称)吉川市子ども読書活動推進計画の策定」、聞こえや言葉に比較的軽度な障がいを持つ児童を対象として、「関小学校に通級指導教室を開

設」など、いずれの分野におい

ても、限られた財源のなかで将来を見据え、様々な取り組みが充実されるものと認識しております。

人口減少時代を迎え、国・地方を問わず、これまでの政策やまちづくりの抜本的な見直しに着手することが強く求められています。市は自らの創意と主体的な変革を通じて時代が課す試練を乗り越え、自らの未来を創造しなければなりません。さらに、職員の英知を結集し、安心・安全で住みよい「吉川市らしい」まちづくりに取り組むことを切望いたします。

